



本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

…会員随時募集中!…

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内 TEL/FAX : 0467-47-1164  
木曜を除く10時~16時 Web URL : <http://www.yamasaki-yato.sakura.ne.jp>  
Eメールアドレス : [ya-yato@arrow.ocn.ne.jp](mailto:ya-yato@arrow.ocn.ne.jp)

8/21 畔の草刈り



# 谷戸の風に癒されながら 田も畑も草と格闘~

残暑がまだまだ続きますが、雨が適度に降ってくれたおかげで、農作物はすくすくと育っています。同時に草の勢いも圧倒的で、しばらくは草刈りに追われます。谷戸塾の後期が始まり、新人募集中です。お待ちしております。

## 後期「谷戸塾」オリエンテーションのお知らせ

3月までの田・畑・雑木林の作業、座学の説明をします。

**9月11日(日)10時~ 農家風休憩舎**

もくじ

☆各班からのお知らせ→2・3p  
☆谷戸の自然だより→p4 ☆谷戸往来→5p  
☆10周年記念フォーラム座談会②→6~9p ☆谷戸の体験学習→10・11p  
☆9~10月日程表(裏表紙)

# 各班からのお知らせ



**田んぼ班** ★9/11(日)すがい作り ★17(日)、18(日)、25(日) はさ作り



7/10 田の草取り

今年も暑い夏でした。猛暑の7月8月は、アゾラや田の草(コナギ、オモダカ)との競争でした。今年は田んぼだけでなく、全般に植物の生育が早い印象でした。

田んぼの作業は、畔の草刈り、ネット張りが済み、今後はすがい作り、はさ作りなど、10月の稲刈りに向けた準備を進めていきます。



稲の花



**畑班**

★9/4(日)ねぎの苗床作り・草取り ★11(日) ねぎ・たまねぎの種蒔き  
★18(日) 草取り・草刈り ★25(日) かぶ・冬菜の種蒔き

ちょっと片寄りがちな天候や気温に、気を揉みながらの作業が進んでいます。作付けしたさといもの生育がよく、大きく広がった葉っぱに朝露の水玉が乗っていて、どこか懐かしい景色が見られました。

これから冬野菜の大根やかぶの種蒔きが始まり、作業の合間に飲む手作り梅ジュースの甘さが、身体に染み渡るおいしさです。



7/24 さつまいもの草取り



**雑木林管理班**

★9/4(日) アスマネザサの除去★11(日)刈払い機で草刈り  
★18(日)、25(日) 稲刈り前の下草刈り



8/7 下草刈り

例年通り盛夏の間も、雑草と格闘しました。1回刈った場所でも、1ヶ月もすれば元通りになってしまうので、夏の間は2、3回以上、草刈りする場所も少なくありません。

また、今年はいよいよ稲刈りまでの間に、田んぼ周囲の柵直しも行う予定です。鎌倉石を含んでいる場所が多く、杭打ちもなかなか大変な作業ですが、どうにか完成させたいと思います。



**農芸班**

★9/7(水) 草木染め ★10/12(水)小麦選別・製粉



7/20 赤ジソの収穫

「澄んだ黄金色」に染まるセイタカアワダチソウで、秋の入り口を感じていきます。ヨモギのような香りに包まれ、清々しい気分になります。

谷戸の無農薬小麦はミネラル豊富な全粒粉に製粉します。



8/3 梅の天日干し



## 自然遊び班

公園協会との共催で、7/31(日)

～8/1(月)「子どもお泊り一日体験」を行いました。

鎌倉の小学4～6年生の男女16名が参加し、野菜の収穫、畑の草取り、竹でお皿と箸作りなど、里山体験をしました。夕食の支度は班ごとに分かれ、大人のスタッフに教わりつつ、かまどに薪をくべ、ご飯炊き、お焼き、谷戸鍋など「煙が目には沁みる！」と言いながら、みんなで楽しく作りました。味は好評でした。作業



をするうちに子どもたちの緊張感もとれ、夕食の時にはすっかりうちとけていました。

夜の散歩では、たくさんのヘイケボタルが舞っている姿を見ることができました。翌朝は各グループで個性豊かなかかしを作り、谷戸の田んぼに立てました。この夏、田んぼの番人となって活躍してくれることでしょう。



### ☆こども里山一日体験 10/23(日) 「さつまいも掘り」

対象：2歳～小学生までの親子 定員：10組 参加費：500円/1組(会員以外の方)



## 生態系保全班

★9/3(土) 秋の虫の音を聞く ★7(水) バッタやコオロギの調査  
★10/1(土) 秋の虫の音を聞く ★12(水) 秋のチョウの調査



ジャコウアゲハ

トンボが産卵できるように、水路の手入れを行いました。草でわからなくなった水路を探すことから始めます。草の上を刈った後に、根っこを切りながら取り除いていきます。

また、花の少ない時期、チョウにとって大切なクサギやヤブガラシなどはところどころ、残しながら手入れをしています。



7/27 水路の手入れ



## 植物育成班

★9/21(水) 秋の野草の調査 ★10/5(水) 湿地の花畑を見る



8/10 カナムグラの除去作業

カナムグラやクズの除去作業を今年もしています。何年も除去し続けて、少なくなってきました。しかし、油断をしたら増えてしまうため、種を飛ばす前に、少しでも多く除去したいと頑張っています。また、ツルが大きくなると、守りたい植物へのインパクトも大きくなるので、早い段階で除去したいと張り切っています。

# 谷戸の自然だより

～生態系から見た、里山の手入れ 谷戸の田んぼ その3～

## ●谷戸の田んぼはなぜ大切か？

### 元の耕作者から途切れることなく、田んぼを継続できたこと

谷戸の田んぼと里山は、数百年以上の歴史を経て作られてきた宝物ですが、わずか数年で、生きものが絶えてしまうこともあります。田んぼをやめると、数年でアシが生え、水が溜まらなくなり、カエルなどが産卵できなくなります。カエルの寿命は数年なので、絶滅してしまう場合もあります。鎌倉や藤沢のように谷戸の周辺で田んぼがない場所では、実際にそのような事例がおきています。畑でも同じことが言え、耕作をやめて草が茂り放題になると、畑に棲んでいたコオロギ類は、数年で絶滅してしまいます。田畑の環境がないと、緑地そのものは保全できても、里山の生きものが姿を消してしまうのです。市内でもそのような事例が見受けられます。昔なら周辺から新たに里山生物が移住してくることも期待できたのですが、現代のように、住宅地に囲まれ分断された谷戸（里山）ではそれが不可能に近いのです。荒廃した里山を復活という話はよくありますが、元の地主さんから途切れることなく田んぼや畑を継続できたことが、当会の大きな特徴であり、良さではないでしょうか。

## ●田の草取りと田んぼ雑草

6月～8月上旬にかけて、田んぼの草取りを2～3回行います。最も苦しい作業の一つですが、除草剤を使わない手作業が、田んぼの貴重な植物を保全することにつながっています。前回紹介したミズオオバコ以外にも、アシカキという田んぼで最も嫌われている雑草が、今や県内ではミズオオバコ以上に珍しい植物だそうです。「アシカキ」とはその名の通り、足を引っかくという意味でしょう。田の草取りをした人なら誰でも悩まされたことがある、トゲがついたイネ科の植物です。畔のふちから生えてきてツルのように田んぼに侵入してきて、アシに絡みついてくる厄介な雑草ですが、これが貴重種だとは本当に驚きました。谷戸の田んぼに生える雑草は、平地の田んぼに生えない貴重な種類があるので、除草剤に頼らず、草取りを手作業で行う価値があるということです。

## ●畔の草刈りと生きもの

田んぼでは年に4回くらいは畔の草刈りを行います。畔は足首くらいの低い草地に保たれています。放任状態ではこのような環境はできません。人間が里山で作りに出した、新たな自然環境と言えるでしょう。同じような低い草地に土手があります。しかし、畔は湿った場所なので、畔と土手では生えている植物の種類が大きく異なります。例えば、テンツキという小さなカヤツリグサ科の小さな草が、畔のふちに密生していますが、田んぼ以外では見たことがありません。コオロギやバッタ類などの昆虫も、畔の周辺にしか見られない、タンボコオロギやイナゴなどがいます。また意外かもしれませんが、草刈りで草丈を短く保つことで、バッタやコオロギの数や種類がとて増えるということが、調査の結果わかってきました。田んぼの畔という環境は、他にはないととても大切な環境なのです。畔の草刈りと田んぼの草取りは、谷戸の生きものを受け継いでいくための、欠かせない作業なのです。

## ～ ホタルのお礼 ～

今年も、多くの会員や一般の方のご協力により、ホタルパトロールを終えることができました。どうもありがとうございました。私たちはこれからも、谷戸保全活動を通して、ホタルなど貴重な昆虫がすみ続けられる環境を守っていきたいと思っています。





# 谷戸往来

谷戸往来

谷戸往来

## 山崎の夏まつりに7名が参加

7/18 (日)、「山崎夏まつり」に、今年も担ぎ手として当会から7名が参加し、夜まで練り歩きました。今年は、地元出身の小磯副市長も担ぎ手として参加されていました。例年、御輿の鳳凰がくわえる稲は、谷戸の田から刈り取って奉納しています。【担ぎ手の感想】「エッサ、ホイサ」と声を出しながら、お渡り。北鎌倉駅にて山ノ内の御輿と合流し、神楽など儀式を経て、一路、山崎へ。肩がイタイなんて言っている間もなく、午後1時から8時間が経過していた。地元の神聖な場に立ち合わせていただけたことに感謝すると同時に、これからも谷戸の会として伝統行事に参加していきたいと思えます。(東樹康雅)

→ 御輿渡



← 御輿渡御の出発式。前列右が小磯副市長。

## 福島の子どもたちの楽宿に協力

8/7 (日)～10 (水)、かまくらあそび楽宿実行委員会主催のふくしまの子ども達保養支援プロジェクト「第6回 かまくらあそび楽宿」が浄土宗大本山光明寺で行なわれ、当会は今年も備品の貸し出しに協力しました。浜でのシート、水分補給のジャグ、砂遊び用スコップやバケツ、ランチづくりでは寸胴鍋・ざる・番重と、さまざまな用途で、ふくしまっ子・かまくらっ子・スタッフ総勢60人という大人数に、当会の備品類が大変役立ったそうです。



## 富士塚、深沢小学校教員補助作業

8/23 (火)、富士塚小教員2名が、畔の草刈りと稲の花の観察に訪れました。畔を覆っていた草も1時間ほどですっかり刈り込まれ、谷戸の梅ジュースを飲みながら、谷戸の活動、子ども時代の農作業体験(馬で田起こしをしていた他)など、スタッフとの交流をはかる貴重な時間となりました。29 (月)には、深沢小教員10名が参加して、畔の草刈りの予定でしたが、雨で中止となりました。

富士塚小・畔の草刈り前



畔の草刈り後

## ロゴマーク発表延期のお知らせ

前号会報で募集した当会ロゴマークについて、応募がありました。ありがとうございました。ただ今、審査を行なっています。発表は今しばらくお待ちください。

## 谷戸の昔、今、そして未来へ～第3部 協働を深める その2



|          |          |
|----------|----------|
| コーディネーター | 志村直愛氏    |
| 鎌倉市都市整備部 | 小磯一彦部長   |
| 鎌倉市公園協会  | 土屋志郎常務理事 |
| 山崎・谷戸の会  | 相川明子理事長  |
| 同        | 黒川美加事務局長 |

### 活動の原点は「わが子のために田んぼを残したい」という思い

(相川) どうしてそんなことをやりたいのかっていうところは本当に単純でして、自分が里山のようなところで育ったという原点があり、自分が子どもを産んでわが子を育てたいと思ったら、一番身近な「山崎の谷戸」に連れて行くのがいいって思ったからなんです。ただ、自分と子どもだけで行っても面白くないので仲間がほしいということで、青空自主保育の会っていうのを、今もそれは続いていて私もずっと保育者をやっていますが、「山崎の谷戸」を根拠地に始めました。すると段々、その母親たちが自然体験がないことに気づき、子どもがこんなにいい場所で育っているのに、親が知らない世の中ってこれからどうなるんだろうと思ったのが 1990 年頃です。その時にこの公園計画の発表があり、自然公園って言いながら、私たちが大事に感じていた田んぼ、関根さんと高井さんが地主でいらした田んぼ（現在残っている本田）がデイキャンプ場になるというのが一番手痛かったわけで、その田んぼを残したいと思ったんです。

私たちのモデルは舞岡公園で、自分たちで田んぼを耕して残した。それを知って私は目から鱗だったんです。その当時まだ市民活動ではなく、市民運動の時代だったので、私が「ここを残したい」と、初めて当時の山崎町内会長さんに会いに行きましたら、もう頭ごなしにせせら笑われて、「あんたたち都会もんは、そうやって残したいと言うけどな、この谷戸を残すってどれだけ大変な思いをしているのか、あんたたちにわかるわけないだろう。とっとと帰れ」と言われて、私は「今日はとっとと帰るけれど、わかった、これから根性すえてやろう」と思いました。

その時の悪いモデルが、私の住んでいる梶原山町内会が市の計画に対して反対するのはいいんですけど、私より一回りくらい上のおじいちゃまたちがまだお元気だった頃で、行政職員に対して頭ごなしに、グワーと怒鳴りつけていたんです。その姿を見て、こんなことして一体計画がよくなるんだろうかと疑問を持ちました。こんなふうに鎌倉市の行政に迫ってもしょうがないのではないか、話し合いの場を持とうとしなければ何もできないなど。舞岡から学んだのは、もしここをずっと田んぼにしたいなら行政に頼むのではなくて、「市民が一生懸命田んぼをやるんだから残しましょうよ」という姿勢でないといけないかなど。それを一番最初に思った



田んぼ修業を始めた頃 田うない

んですね。土屋さんばかりでなく、市の昔から職員の方々は、私が行くと目が合わないように逃げていくとか、とっても怖いとか未だに言われますけど、本当に怖くって排除されていたら、今日この場に座っていないはずなので、やっぱり膝積み談判の場をつくろうとしてきたので、今ここにいるんだなと思っています。

(志村) 今の中にたくさんいろいろなお話が入っていてすごいなと思います。原点は自分用なんです、なんか。でも、これ大事だと思うんです、わが子を育てたいという…。「この田んぼいいわね」という動物的な勘みたいのがまずすごくいいし、「一人でやるのはさみしいからお友だちがほしいわ」なんて言って仲間を作ってしまう。入口は人間的なスタート地点。だけど蓋を開けてみると、青空自主保育っていうところまでもって行ってらっしゃるし、交渉だつて怒鳴りつけるではない、ちゃんと「自分もやるからお願いよ」というスタンスをとられているという意味で相川さんは先進的だったとも思いますし、恐れられていたのかなというのもよくわかる気がします。一番怖いタイプですよ、きつと。けんか腰で来るんじゃないで、理論的にちゃんとやってきて、でも熱意がある方。でもそれが先陣をきって、この会を盛り立ててきての今だというのが、改めて納得できた感じがします。そして、悪い見本やよい見本というのをちゃんと見極めていらっしゃいますのもすごいなと思います。舞岡は田んぼ作って早くからやってらした。町内会ですね、その昔多かったですね。あの世代は、市役所の職員にむかって「あのバカヤロウ!!」みたいな感じで。今、逆に減ってきている気もしますけれどね。熱意の表れみたいなのがそこにあったのかもしれない。さあ、それを受け止めた第二世代の黒川さん側の観点からぜひ、成功の秘訣、評価をお願いします。

(黒川) 私も同じ発想で谷戸に関わっているんですね。子どものために、子どもをここで育てたいという一心で、谷戸に来るわけですね。他の自然保護活動団体などを見ると青空自主保育がなんとなく関わっていることが多いようです。この前身の会の中に「山崎の谷戸を愛する会」がありますけれど、青空自主保育「なかよし会」の保護者と相川さんたち保育者なりが立ち上げた会ですね。子どもたちのためにというところから始まっている部分があるっていうのは、「山崎・谷戸の会」がこうやって発展してきた大きな原因のひとつなんじゃないかなと思います。今も小さい子連れで活動に来る若い家族が大勢います。子どもを連れて行くうちに自分の子どもと楽しむだけでなく、みんなで来たほうが楽しくなるんですね。そうしているうちに、まったく知らない子も一緒に泥んこになって張り切っているのを見て、嬉しいなと思うようになります。体験学習の授業で先生方と谷戸に来る子どもたちもとっても喜んでるのがこちら嬉しいし、かわくなるんですね。こういう人のつながりが生まれる魅力的なものが活動の中にあるっていうのが、ここまで発展してきた。谷戸っていうのが、生きものを守るっていうのももちろんそうなんですけど、次世代のためにというのがあっていうのが大きいんじゃないかなと思います。

(志村) 私も大学で学生を教え育てる立場ですけど、最近の無気力な学生を相手にしているとたまらんです、先ほどのビデオを見ていると子どもたちが生き生きしてますよね。私も小学3年生の娘がいますが、こうはいきませんね。学校では教えられない、生き生きとした、子どもたちの「ヒャ!!」というこの感じって久しぶりに見た感があるので、教育界としてはヤバイな!! でもそのヤバイことをちゃんと山崎ではできているなって思った時に、これは何だろうと我々として反省点でもありますし、模範にしたいというのがあるかなと感じました。鎌倉市内の子育てしている親御さんたちはみんないらっしゃったらいんじゃないかな。やっぱり、記念写真の前でトライしているのを見たんですけど、女性の方が多いっていう、強いっていうのを感じるのも、なんか子育て

っていう感覚から母性っていう雰囲気がある気がするんですよね。もちろん、おじいちゃまとかお父様とかもいらっしゃるんですけど、圧倒的に女性の方が多い感じがするのが象徴的に映るんですけど、この辺もひも解いていけたらいいんじゃないかな。

ちょっとお耳が痛い感じがしますが、これからのことを考えますと、表向きはすごくいいですが、人知れぬ苦労があったり、もう大変なんですってところもあると思います。じゃあ、この活動を10年、スタートからだとして20年、30年の活動を眺めていただいて、大変さですとか、難しさ、問題点みたいなものがあるとすると何なのかな。これをちょっと聞かせてもらいたいと思います。

## 最初の10年、次の10年でようやくお互いが理解し合えた

(相川) 私たち「鎌倉中央公園」というネーミングに、どうも馴染めないんです。どこにもありそうで味気ない。市長さんも「えっ？ どうしてそんな名前なの」と言われたぐらいで、たぶん国や県からの補助金を取るために一番よかったんでしょう。そこで誕生の時は「鎌倉中央公園を育てる市民の会」と、行政にも認められるような名前にしましたが、NPO法人化して好きな名前をつけていいよと行政の方に言われたので、「山崎・谷戸の会」にしました。

さっき私が怖い怖いと言われたゆえんのエピソードの一つかと思いますが、何年にもわたって公園建設工事をする間、毎年の習わしのように、次年度の工事計画書を行政から説明してもらっていました。その際に私たちは、素人なりに質問はするんですけど、こっちの勝手な思い込みで、昨年度はここまで直談判して理解してもらえたんだから、自然は当然残してくれているだろうと考えて質問しないでいると、工事が始まっていざ現場に行ったら予想もしない自然破壊の工事をしていたということがありました。それで私が怒鳴り込みに行ったら、「だってあなたが聞かなかったから説明しなかったんだ」と行政に言われたのです。それはもしかすると別に他意はなく、わざわざ隠したわけではなかったのかもしれない。要するに立場が違くと、わかり合おうと思っても、それぞれの思い込みでいろいろ発想するんですよね。だから、それを繰り返して衝突みたいなことが起こったのかもしれませんが、さっきお話ししたように、けんかしちゃったら、私たち、あそこの谷戸残せないとお尻に火がついていたので、「やっぱりじゃあここまでは譲歩しましょうか」みたいなことを繰り返してきたのです。

今みたいにしっかり公園協会と徒党を歩めるようになったのは、この10年ですね。初めの10年は、「どうしてこの広場の草刈っちゃったの」と私たちが嘆くと、「でも公園の草刈りはこういうもんだ」と公園協会は当然のように思っていたわけですから、どうして私たちはこの草を刈らないでほしいのかという理由を、相手が納得できるまで説明して要望を出すとかしなくてはいけないと反省したり。そういうことってなかなかみ合わなくて、うまくいかないというふうに周りから見たかもしれないし、双方が愚痴の言い合いばかりしていたようです。でもこの頃それがなくなってきたと思います。それはやっぱり、時間がかかるということなんだろうと。

今、なんでも結論を急ぎますね。例えば総合学習も2002年に始まって、5年生も6年生も年に

2015年秋 稲刈り風景



何回も谷戸に来て、子どもたちはとても貴重な体験をして、私たちはかねての念願が叶ったと喜んでいたのですが、やっとここまで実ったと思ったら、ゆとり教育見直しで学力偏重に戻ってしまう。たった5年で結論が出るわけないでしょう。うちの会だって10年20年かかったのに。私たちは子育てしている母親としてですね、子どもって思うようにならないという実感があります。隣の子を見て、来年ならわが子もできるようになるかなって、ふと気を抜くと子どもができたりする。つまり待つ姿勢が大事だっていうのを子どもから学んでいるので、行政と接触するとか、市民活動をやっていくのは、やっぱり時間が必要なんだなといろいろと学ばされています。

## 次の世代が引き継ぐために必要なこと

(志村) 大事なことをたくさんお話ししていただけるので、ひとつ、ひとつ勉強になりますね。思い込みで進んじゃうんだと、人が関係の中でいつも起きることでもありますけれど、そういうことで起きるボタンの掛け違いみたいなもので公園とは勝手にできちゃうものだとか、行政におんぶにだっこや、行政が勝手に作っちゃうみたいなどころから、きちっと時間をかけて交渉されながら、なぜ、どうしてこう思うか、なぜ、こうなのかみたいなどころを、きちっとやってらっしゃった経過が相川さんの持ち味であるし、それがいいものを作っていくためにすごく大事だということなんですけど。すごく時間がかかるので結論を急がないのは非常に達観されたところで、私なんか、人間結果を急ぐって傾向があるのは間違いないと思いますし、さらに言えば男社会は年度内で予算を消化しないといけないという役所と、子どもをゆっくりという女性の感覚と、もしかしたら違うのかなと。この時間をかけるっていうのはなんか、子育てですよ。もっとも農業をやる方って、気象条件ですとか状況、以前の水の流れですとかを見ながら、植物をゆっくり育てていく。じっくり見ながらやはり取り組んでいくという目線だと思うんですけど、その横でガンガン混んだ横須賀線でもまれながら、今日は大事な打ち合わせだなんて言いながら、こんなところでパソコンを開いているようじゃダメなんですけど、その両面がやっぱり今の社会にあって違う答えを出しているのかなとちょっと考えますね。それでは次世代の黒川さんどう思いますか？ 難しいこと、問題なこと、相川さん以上にあるかと思いますが、ここで一発ぶちかましてもらって。

(黒川) 私たちは、これだけのことをやってきた、ある程度できあがった組織の中に入って活動を始めているといった感じですね。今、立ち上げの頃を知らない世代の事務局員が増えてきています。私もそうなんです。次は私たちがこの運営をしていかなければならない。みんな谷戸は大好きです。谷戸に愛情を持って通っているんですけど、それぞれ仕事、介護、子育てを抱えながらやっていますね。今までこれだけ時間をかけて、愛情をかけて相川さん中心にやってきたことを、次の世代が同じようにやっていくのはなかなか難しいことだと思います。率直に言ってしまうと、もう少し運営費の部分ですかね。私たちはいちボランティアとして参加し始めて事務局員になりました。事務局員となるとそれなりのプロとして責任をもって当番に入ってやっております。入口はボランティアですが、その経験を経てのちに事務局員として活動を支える立場となっていきます。この部分へのある程度の運営費がないと、私たち次の世代を巻き込んでいくのは大変だなと思っているところですね。でもやっぱり、行政さんの方からも運営費が大変な中、私たちの活動費を確保して下さっているし、いろいろなサポートしていただいて運営自体はやりやすくなっているんですけど、次の活動人員を確保して続けていくというのが今の私たちの目の前の課題ですので、そのための十分な運営費をどうにか確保できる道筋を一緒に考えていただきたいなと思っております。(つづく)